

ハビリス

ハビリスの名は、リハビリテーションの語源である、ラテン語の、re (再び) + habilis (適した、ふさわしい) + ation (状態にする) から採ったものです。

宮崎県身体障害者相談センター
(高次脳機能障がい総合相談支援拠点機関)

〒880-0032 宮崎市霧島1丁目1-2

TEL: (0985) 29-2556 (代)

FAX: (0985) 31-3553

<http://www.shinsyocenter-miyazaki.com>

宮崎県身体障害者相談センター通信ハビリス (第4号) をお届けします。

身体障害者相談センターでは、身体障がい者の方々の自立支援医療 (更正医療) や補装具の判定をはじめとした各種の判定や相談に対応するため、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、また、新たな障がいとして相談支援を行っている高次脳機能障がいに対応するために支援コーディネーターなどを配置し、身体障がい者の方々や市町村の総合的な支援を行っております。

今回のセラピストだよりでは、それぞれの業務を紹介します。お気軽にご相談ください。



目次

○セラピストだより

- ・看護師
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士
- ・臨床心理士
- ・支援コーディネーター

○高次脳機能障がい

- ・社会的行動障がい

セラピストだより (コメディカル特集)

看護師



看護師は医療の現場で働くことが多い職業ですが、身体障害者相談センターでは、主に以下の業務に携わっています。

- ・自立支援法による補装具 (補聴器) の判定
- ・補聴器のフィッティング
- ・子どもの聞こえと言葉についての検査や相談
- ・自立支援医療 (更生医療) の判定業務



※子どもの聞こえと言葉の相談業務 (ひだまり) について

市町村や、幼稚園、保育園等から言葉が遅れていたり、音や話しかけに対しての反応が気になる子どもについて相談があります。当センターでは、診察や聴力検査、言語評価、心理検査などを行い、聞こえや言葉の遅れについて、総合的に評価し、必要に応じて関係機関に紹介しています。ひだまりの業務に携わっていると、子どもたちのあどけない笑顔に逢えることがとても楽しみです。

理学療法士



理学療法士とは、脳血管障害の後遺症、交通事故やケガ、脳性麻痺、その他の原因で運動機能が障害された時に関節の動きや筋力を改善したり、痛みを軽減し、立位までの動作や歩行動作獲得などの運動療法を行う職種です。最近では、高齢者の運動療法も積極的に行われるようになりました。

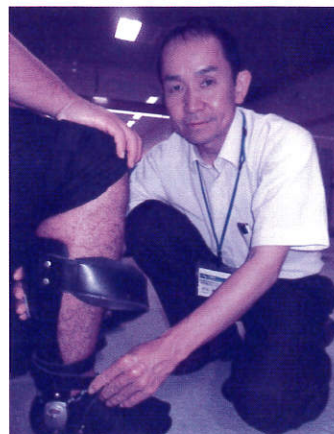
身体障害者相談センターでは、主に義肢・装具の判定業務と地域リハビリテーション推進事業に携わっています。

・補装具判定(義肢・装具)

月に3回(水曜日)、補装具の判定を当センターで行っています。また、年間20数日、地域に出かける巡回判定も行っています。

・地域リハビリテーション推進事業

福祉施設等に出向いて、歩行や移動の指導、介助の方法、補装具の助言等を行っています。昨年は32回、施設に出向くことができました。



下肢装具判定の一場面

※動作や歩行でお困りのことはございませんか？ また、補装具などで疑問がございましたらお気軽にご相談ください。

作業療法士



作業療法士は、子供からお年寄りまでの心や身体に障がいのある人が、充実した生活ができるよう、「作業活動」(食事、遊び、手工芸等)を用いて、リハビリテーション指導を行います。

身体障害者相談センターでは、主に補装具の判定業務やリハビリテーションの相談・支援に携わっています。

・補装具の判定

補装具は、「車椅子・電動車椅子・重度障害者用意思伝達装置」を担当しています。

・地域リハビリテーション推進事業

障がい者施設等へ理学療法士と一緒に訪問しています。「食事の介助がわからない」「施設で行う作業活動について教えてほしい」等、施設で困っていることについて助言等を行っています。



電動車椅子「操作テスト」の様子

※補装具のこと、日常生活動作等の事で何かお困りの点がありましたら、遠慮なくご相談下さい。

言語聴覚士



言語聴覚士とは、ことばやきこえ、食べることに問題のある人の評価やリハビリを行う仕事です。一言で「ことば」や「きこえ」といってもその原因や症状はさまざまです。

身体障害者相談センターでは、**幼児から高齢者までの言語機能、聴覚、高次脳機能障がい**の面接や**検査を行っています**。自宅での自主練習の指導、経過観察、他のリハビリ機関への紹介も行っています。「ことば」や「きこえ」などの問題で「どこに相談したらいいか、わからない」という時は、お気軽にご相談ください。



臨床心理士



臨床心理士は、近年増加している、“こころ”の問題について、その解決を図るために、心理学の知識や技法を用いて援助を行う「こころの専門家」です。

- 身体障害者相談センターでは、
- ・ **高次脳機能障がいのある方や御家族から、普段の生活の様子や困っていること等についてお聞きしたり、各検査、支援（療法）を行っています。**
 - ・ **聞こえとことばの相談で来所された子どもさんの、発達の様子をお聞きしたり、必要に応じて検査（発達、知能検査等）を行っています。**

それぞれ他スタッフと連携をとりながら、総合的に判断し、支援に努めております。お気軽にご相談ください。



支援コーディネーター



身体障害者相談センターには、高次脳機能障がい支援コーディネーターが配置されています。

高次脳機能障がいに関する相談支援や、コメディカルスタッフと検査評価等を行っています。必要に応じて医学的支援・研究拠点機関である宮崎大学医学部に紹介しています。

また、高次脳機能障がいの理解を深めていただくために正しい知識の普及・啓発に努めています。

※高次脳機能障がいについてお困りのことなどがございましたら、お気軽にご相談ください。



高次脳機能障がい —社会的行動障がい—

高次脳機能障がいでは、記憶障がいなどのほか、自分の気持ちや行動を上手くコントロールして回りの人や状況に合わせていくことができない状態（意欲・発動性の低下、情動コントロール障がい、対人関係の障がい、依存的行動、固執など）が生じることがあります。これは、人格ないし性格変化と表現され、受障前とは別人になったようだと言われます。このような社会的行動障がいは、社会参加を阻害する要因となります。

〈社会的行動障がいの症状〉

- ・長い時間座っていることができない
- ・落ち着きがない
- ・ほうっておくと何もしない
- ・突然に興奮したり、怒り出す
- ・自分で制御できず暴力や性的行為などの反社会的行為が見られる
- ・他人と上手く交流できない
- ・感情の起伏が激しく急に泣いたり怒ったりする
- ・気持ちが沈みがちで、ふさぎこむ
- ・家から出ようとしめない



〈社会的行動障がいに対処するために〉

周りの人は

- ・危険のない安全な親しみのもてる環境を整える
- ・感情の爆発が起こったときは、席をはずしたり、話題を変えたりする
- ・当事者に対して「なまけている」と言わない。
- ・喜怒哀楽を大きさに表現する。
- ・抑揚をつけて大きめに話す。
- ・不適切な行動は、はっきり指摘する。
(その行動・発言がどう思われるかをたんと伝える)
- ・当事者と話しをするときには、表情、姿勢、視線を確認する。

本人は

- ・まっすぐの姿勢を維持する。(正しい姿勢が保たれると注意力が増す)
- ・何をするかを思い出すためのヒントをもらう。
- ・すべき仕事や活動のチェックリストを作る。
- ・相手の表情を見たり、メモやスケジュール表を確認する。
- ・相手の言った言葉をおうむ返しして頻繁に確認する。
- ・問題が起きた時は助けてくれるようにと、周囲の人に頼んでおく。
- ・思いっきり運動をして、すっきりする。
- ・いらいらしたらその場から立ち去る。